

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成22年1月14日(2010.1.14)

【公表番号】特表2007-538189(P2007-538189A)

【公表日】平成19年12月27日(2007.12.27)

【年通号数】公開・登録公報2007-050

【出願番号】特願2007-516914(P2007-516914)

【国際特許分類】

F 03 D 1/04 (2006.01)

F 03 D 1/06 (2006.01)

【F I】

F 03 D 1/04 Z

F 03 D 1/06 B

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月18日(2009.11.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ロータとブレードの組立体と、

流入する流体を排斥しつつ增速させるために、前記ロータの前方に位置された静止前部と、を備えた流体タービンであって、

前記ロータとブレードの組立体は、

軸回りに回転可能であり、外表面を有するロータと、

前記ロータの前記外表面から延在する複数のブレードであって、その各々が先端と、振向け可能な正面露出を有する主被駆動面とを備え、各前記ブレードは、ブレード近傍の前記振向け可能な正面露出の間に、有効開放領域が何ら存在しない形状とされかつ位置され、前記軸と各前記ブレードの前記先端との間で規定される半径の外側30%以内に専ら配置された複数の前記ブレードと、

を有し、

前記静止前部は、排斥された流体を各前記ブレードの前記振向け可能な正面露出部へと向かわせる形状とされかつ前記ブレードに対して配置され、

前記静止前部は、少なくとも部分的に球形状である、流体タービン。

【請求項2】

前記静止前部と前記ロータの前記外表面が、合わせて半球を形成する請求項1に記載の流体タービン。

【請求項3】

前記静止前部が、半球形状であり、

前記ロータの前記外表面が、円筒形状である請求項1に記載の流体タービン。

【請求項4】

前記静止前部から流出する流体を螺旋状に偏向させて前記ブレードへと向かわせるための、半径方向に離間して設けられた複数の翼をさらに備え、

前記翼が、前記静止前部内に後退可能である請求項1から3のいずれかに記載の流体タービン。

【請求項5】

前記流体タービンを回転可能に搭載する回転可能なベースを備えている請求項 1 から 4 のいずれかに記載の流体タービン。

【請求項 6】

前記ブレードの背後に低圧の導入領域を生成するための、円錐形状の後部本体を備えている請求項 1 から 4 のいずれかに記載の流体タービン。

【請求項 7】

風力タービンまたは水タービンである請求項 1 から 4 のいずれかに記載の流体タービン。

【請求項 8】

前記静止部が、流出する流体の表面張力を低減する形状である請求項 1 に記載の流体タービン。

【請求項 9】

前記静止部が、流出する流体の表面張力を低減する形状である請求項 7 に記載の流体タービン。